

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回清須市地域包括ケアシステム推進委員会
開催日時	令和4年11月11日（金） 午後2時から午後2時55分
開催場所	清須市役所南館3階 大会議室
議題	1. 開会 2. 議事 (1) 令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の取組状況 (資料1-1、1-2) (2) いこまいか教室フレイルアンケート調査結果報告 (資料2-1、2-2) (3) その他 3. 閉会
会議資料	令和4年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会委員名簿 清須市地域包括ケアシステム推進委員会設置要綱 令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の取組状況（資料1-1、1-2） いこまいか教室フレイルアンケート調査結果報告（資料2-1、2-2）
公開・非公開の別 （非公開の場合 はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	2人
出席委員	加藤委員（委員長）、山内委員（副委員長）河村委員、鎌田委員、小関委員、塚崎委員、堀江委員、神藤委員（代理）、宮田委員、伊藤（昭）委員、伊藤（智）委員、塚田委員、田口委員、竹嶋委員
欠席委員	後藤委員
出席者 （オブザーバー）	西名古屋医師会事務 高木オブザーバー
出席者 事務局	（清須市役所高齢福祉課） 加藤健康福祉部長、古川健康福祉部次長兼高齢福祉課長、酒井課長補佐、青山介護予防係長、渡辺主任主査、加藤主任主査 （清須市社会福祉協議会） 清須市地域包括支援センター 柴垣管理者 清須市地域包括支援センターさわやか 松岡係長 清須市社会福祉協議会 佐々木生活支援コーディネーター

会議の経過

1. 開会

●事務局

皆様、こんにちは。

ただいまから「令和4年度第3回清須市地域包括ケアシステム推進委員会」を始めさせていただきます。私は、本日の進行役を務めさせていただきます、健康福祉部次長兼高齢福祉課長の古川です。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に、委員の皆様にあらかじめご承知いただく事項として、清須市では附属機関等の会議の公開に関する要綱を定めており、附属機関等の会議及び会議録は原則公開することになっておりますので宜しくお願い致します。

本日の傍聴者は、2名お見えになりますので、宜しくお願い致します。

本日は後藤委員が都合により欠席し、神藤委員に代わり西枇杷島警察生活安全課係長の岡田様が代理出席を頂いております。

また、地域包括ケアシステム推進委員会は、清須市の地域包括ケアシステムの構築を目的に設置しており、認知症施策、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援・介護予防の基盤整備、地域ケア推進会議に関して、毎回、議題を決めて皆様に協議をして頂いております。

本日は、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援・介護予防の基盤整備を議題とさせていただきます。

それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

開会にあたりまして、健康福祉部長の加藤よりご挨拶を申し上げます。

(加藤部長挨拶)

●事務局

それでは議事に入りますが、議事進行につきましては設置要綱第5条第3項の規定により委員長が議長になることになっておりますので、議事進行につきましては、加藤裕委員長に議長をお願いいたします。宜しくお願い致します。

◎加藤委員長

本日は大変お忙しい中、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の第7波が終わり、やっと穏やかな年末年始が迎えられかなと思っていた矢先に雲行きが少し怪しくなってきました。ご出席いただいた皆様におかれましては、出来る防衛策をとっていただきまして健康やかに過ごすことが出来ればと思っております。

それでは議事に入らせていただきます。座って失礼いたします。

本日の会議録署名委員には、小関委員と河村委員にお願いしたいと思

います。宜しくお願い致します。

(小関委員、河村委員承諾)

それでは、議事に入らせていただきますが、ご質問やご意見につきましては事務局の説明をいただいた後に、お受けしたいと思っております。

それでは、2議事 議題(1)「令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の取組状況」についてお願い致します。

2. 議事

●事務局

[資料に沿って説明]

令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の取組状況

(資料1-1、1-2)

◎加藤委員長

ただ今、令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の取組状況につきましてご説明いただきました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

レインボーネットを使って地域ケア個別会議が行われていると思いますが、地域包括支援センターの管理者である柴垣さんから現在の状況と説明について簡単にお問い合わせ出来ますでしょうか。

○地域包括支援センター柴垣管理者

地域ケア個別会議におきましては、これまでは対面で行っていましたが、コロナ禍になってからは電子@連絡帳のレインボーネットを活用して実施して参りました。

今年度については現在第3回目が始まったところで、今回は独居の高齢者の方のゴミ出しをテーマにした会議となっております。

オンライン会議については毎回各利用者にご案内をさせていただき、個人情報の制限の同意の上、グループのプロジェクトを立ち上げて参加メンバーが意見交換出来るような形をとっています。

始めに事例を掲示して、参加者にご質問をいただいてから事例提供者が質問に回答します。その後各専門職からの専門的な視点からのご意見をいただき、最後に弁護士、医師、歯科医師からアドバイスをいただき取りまとめるというような形で進めています。

コロナ禍で3年くらいオンライン開催でしたので、来年2月は一度、対面会議を計画しています。

◎加藤委員長

コロナが落ち着いたら、是非オフラインでやっていただきたいと思いますと考え

ています。

また地域ケア個別会議から出た問題におきまして、レインボーネットを実際に利用する側として居宅介護支援事業所は一番最前線でやっておられますが、福神居宅介護支援事業所の伊藤委員いかがですか。

○伊藤（智）委員

レインボーネットによるオンライン会議もコロナ禍で3年目になりましたが、徐々に慣れてきたと思います。色々な考え方があると思いますが、持ち寄って練り上げていくという作業は経験を積まないとやりにくいのではないかとというのが今後の課題だと思いました。

◎加藤委員長

レインボーネットで出された事例について、さらにそれを深めるという点では、少しネット上では白熱した議論になりにくいことはあったと思います。

その他何かご意見ありますか。

先ほど市の説明資料1-2の内容のところACPについての話も踏まえてなかなか救急隊が情報をつかみにくいということでした。その対応策として訪問看護師が関わっている場合は、そこに連絡が行くことが期待されていますが、訪問看護をやっておられる田口委員は具体的にいかがでしょうか。

○田口委員

コロナ禍において、利用者様のお宅にはすぐに連絡できるように大きく貼り出しをしています。実際まだ連絡はない状況です。資料1-2の胡桃訪問看護ステーションさんと同じようにご本人が心肺蘇生を望まなくても家族の方等が心肺蘇生を望まれた時に、私たちが関わる中でどのように対応していけばいいのかなというものが課題であります。

ACPについては、ステーションも力を入れていかなければいけないというところですが、どこまでの範囲でお声がけをしていくのかというところと、また、ナーシングホームも併設していますので看取りの方もいて、そこまで踏み込まれると困りますというご家族もみえるので、実際にはACPまでたどりつけないのが現状です。

◎加藤委員長

ACPが上手くいかないというのはなかなか場を持ってない。そのあたりがどうやってご家族さんと話を進めて行くのかというのは、実際にはACPそのものの内容よりもその前段階のことが主軸なのかもしれないと思いました。

その他のところで口腔観察シートの活用が十分でないという問題があ

りますが、小関委員はそれについていかがでしょうか。

○小関委員

オーラルケアはフレイルの前のプレフレイルという過程だと僕は考えていて、例えば今までご飯が食べられたのに途中で飲み込めなくなって発症する。普通に歩いている人がそういう状態になった場合に今後フレイルになっていく確率が高いというデータもありますので、そのためのチェックをするために役立ちます。

口腔観察シートで個別のチェックをしますと、実際の歯の状態、例えば入れ歯の状態、銀歯の状態、飲み込みの状態と、僕らが持っている口の中の客観的なデータと口腔観察シートには結構因果関係があるようなイメージで、歯が伝える情報でもあると思いますのでもう少しデータの解析をしていきたいと思っています。

◎加藤委員長

オーラルフレイルは非常に重要な問題ではあると思っています。

薬に対する相談機関が必要だということで、薬剤師会での出前講座実施について塚崎委員いかがでしょうか。

○塚崎委員

お薬の関係の相談や質問で、実際に出前講座のご希望があれば向かわせていただきます。薬剤師会では、現在かかりつけ薬剤師の周知に力を入れており、かかりつけ薬剤師が地域や薬局に出向いて健康講演会を実施したりしています。コロナ禍で件数は減っていますが、周知活動に今後も力を入れてやっけて行こうと考えています。

◎加藤委員長

かかりつけ薬剤師を持ちましょうということが薬剤師会のメインテーマとされていて、そういったところに注目していくことがACPに繋がっていくかと思っています。

今年度の尾張中部地域在宅医療・介護連携推進研修会について、詳しいご説明をお願いします。

○堀江委員

資料1-2の(3)にもありますとおり、令和4年度尾張中部地域在宅医療・介護連携推進研修会は、清須保健所と清須市、北名古屋市、豊山町で共催する形で昨年度から開催させていただいており、今年度は在宅医療を継続していく上でのACPというテーマで2月4日の土曜日開催する予定です。

この研修会では、今年度はワーキング部会の中でACPの話題が大き

く出ますし、先ほども事業者様の方からACPも開拓していかななくては
いけないという話もあったとおり、いろんな職種から考えていく必要が
あると思っております。

担当講師の選定を安城更生病院の医師と尾北医師会の専門職の方にお
願いし、地域の取組みをこの研修会で講演いただきながら、みんなで何
が出来るのか、どのように考えればいいのかについてグループワークも
考えて研修会を企画しています。またご案内させていただきますのでよ
ろしくお願いします。

◎加藤委員長

それでは議題2の方に移らせていただきます。

いこまいか教室フレイルアンケート調査結果報告について事務局より
ご説明いたします。

●事務局

[資料に沿って説明]

いこまいか教室フレイルアンケート調査結果報告

(資料2-1、2-2)

◎加藤委員長

資料2-2の左上参考2で支援1が61.6%それと支援2が増えて
きています。

いこまいか教室に行っている人と行っていない人で差があるかどうか
というデータはございますでしょうか。

●事務局

分類して集計することが現状難しい状況です。

◎加藤委員長

寿会が中心となって教室が行われている地域もあると伺っていますが、
このアンケート結果をどう思われるか、鎌田委員いかがでしょう。

○鎌田委員

私も80歳になりまして、最近思うことは、平均寿命と併せて健康寿
命が言われている中で69歳以下はそれほど変わらないですが、同級生、
友達を見ていると75歳から79歳ぐらいが一つの峠になると思いま
す。75歳前後で病気になったり、79歳で亡くなったりする人がいま
す。その次の峠が80歳から89歳の間の85歳です。これからもう少し
きめ細かい対策を立てようと思えば、こういった資料も70歳から9
0歳までの間を4つぐらいに分けて70代の前半・後半、80代の前半・

後半に区切っていただけるとありがたいと思います。

もう一つですけれども、我々老人は耳も遠く、目もだんだん白内障になってきているという状況でございますが、いろんな講習会などで資料が配られたり、お話を聞いても半分しかわからないことがあります。スライドとか映像を見ながら説明してもらおうと良くわかると思います。

◎加藤委員長

非常に的を射たご意見かと思えます。

平均寿命、健康寿命を考えると70歳から90歳までの20年間の間、そこにポイントを絞ってランクを分けていくことで健康寿命の延伸が達成出来たかどうかの評価に繋がるかと思えます。

それに対しては市の方で対策のほうをお願いしたいと思えます。

利用者としてのご意見として目から入る資料、これもまたご一考いただいで生かしていただければと思えますのでよろしくお願ひいたします。

認知症サポーターの会の代表として竹嶋委員、アンケート結果をどう思われますか。

○竹嶋委員

いこまいか教室などに自分の家から歩いて出掛けてコミュニケーションを取ることは認知症予防としてすごく関心出来ることだと思います。今日は何をやったということを書き出すというのは健康寿命を延ばす一番の方法だと思います。

最近では、お年寄りが自分の手で文字を書くということがなくなっているのので、自分のサロンでは少しでも書くということを考えています。私たちの中ではスマートフォンだとか電化製品に慣れた方がいないので、鉛筆と紙を持ってもらうのもいいかなという思いもあります。

◎加藤委員長

脳トレを含めて熱い問題かと思えますので今後期待していきたいと思えます。

小関委員には、オーラルフレイルの詳細についてお願いします。

○小関委員

オーラルフレイルというのは、なかなか顕在化しないというか本人に自覚がないということが多く、質問票などを使って、どのような状態であるかを確認しながら行いますが、特に男性の方は指摘をすることにより今の状態を治療することで改善出来るということがかなりわかっています。

例えば、あいうべ体操とかいろんな運動があります。それを2週間、

または3日間頑張ってしまうというの効果が出ています。それだけで元気になれる方がおられます。

いこまいか教室とか色々なところで講演会をするとか、動画を見せたりとかして学習したりすると、結構みなさんそれをやった後、1ヶ月後に具体的な変化が現れると思います。

◎加藤委員長

どうも貴重な意見を沢山ありがとうございました。

清須市内に23ヶ所実施をされていると伺っています。高齢者の方が介護予防を実践する通いの場、いこまいか教室があるから今日はちょっと出掛けるかという外出の機会があるのは大変意義があるものであろうかと思います。今後もこうしたいこまいか教室の参加を広めていくことが、結果として地域で自分の住み慣れた場所で生活していきたいという気持ちを高める。その気持ちが地域包括ケアシステムを構築していく上で望まれるかなと思います。

それでは議題3、その他について事務局お願いします。

●事務局

委員の皆様から貴重なご意見をいただきましたので、市の方も地域包括ケアシステムを構築していく中で課題とし、今後につなげて行きたいと思います。どうもありがとうございました。

◎加藤委員長

本日の議題はこれで全て終了しました。皆様のご協力によりまして、さまざまなご意見をいただきました。今後の発展に生かしていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。それでは、事務局にお返しいたします。

3. 閉会

●事務局

これもちまして、令和4年度第3回清須市地域包括ケアシステム推進委員会を閉会いたします。本日は円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。

会議の結果	会議の経過に示したとおり
-------	--------------

会議の経過を記載して、その相違のないことを証するためにここに署名する。

署名委員 小関 健司

署名委員 河村 年美